

令和３年度全国学力・学習状況調査の結果について

岩国市教育委員会

１ 調査の概要

（１）目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（２）調査期日 令和３年５月２７日（木）

（３）令和３年５月２７日（木）に調査を実施した学校・児童生徒数

学 年	学校数	児童生徒数
小学校第６学年	岩国市立小学校 ３１校	９８０人
中学校第３学年	岩国市立中学校 １４校	９７８人

※岩国市立宇佐川小学校は、第６学年に在籍児童がいないため、実施なし。

（４）調査の内容

- ① 教科に関する調査【小学校・・・国語１４問 算数・・・１６問】
【中学校・・・国語１４問 数学・・・１６問】

② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

ア 児童生徒に対する調査 【小学校・・・６９項目 中学生・・・６９項目】

イ 学校に対する調査 【小学校・・・９１項目 中学校・・・９１項目】

※ 学校に対する調査には、上記９１項目以外に「新型コロナウイルス感染症の影響」に関する質問１１項目が設定されていた。

2 結果概要

(1) 教科に関する結果

① 平均正答率

○ 小学校（6年生）

	国 語	算 数
岩国市	6 5	6 9
全国	6 4 . 7	7 0 . 2
山口県	6 4	6 9

○ 中学校（3年生）

	国 語	数 学
岩国市	6 3	5 4
全国	6 4 . 6	5 7 . 2
山口県	6 5	5 8

② 全体の結果

○ 全国平均との比較（平均正答率）

小学校では、国語はほぼ同等であり、算数はやや下回っている。

中学校では、国語、数学とも、やや下回っている。

(2) 生活習慣や学習環境に関する結果

① 児童生徒に対する調査

【望ましい状況】

○ ≪子供たちの意識≫

「自分にはよいところがあると思う」という自己肯定感の高い児童生徒の割合が高い。また、「将来の夢や目標をもっている」、「人の役に立つ人間になりたい」という児童生徒の割合も全国と同様に高い割合である。

さらに、「人が困っているとき進んで助ける」「友達と協力するのは楽しい」と回答した児童生徒の割合も高い。

○ ≪子供たちの生活習慣≫

「朝食を毎日食べる」「毎日同じくらいの時刻に起きる・寝る」という規則正しい生活を送っている児童生徒の割合が高い。この結果に比例し、規則正しい生活を送っている児童生徒の全国学力・学習状況調査の正答率も高くなっている。

○《学習》

国語や算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと回答した児童生徒の割合が高い。また、対話的な学習活動の場面で、友達の話最後まで聞いたり、話し合い活動に取り組んだりする児童生徒の割合が高く、全国を上回っている。

新たにICTを活用した学習状況に関する項目が加わった。その中で、ICT機器の活用は学習に役立つと回答した児童生徒の割合が高く、中学校においては全国を上回っている。

【課題とみられる状況】

●《地域との関わり》

地域行事への参加や地域貢献について考えることについては、小学校は前回調査よりも割合が下がっており、全国的にも同様の傾向にある。

一方、中学校は、「地域をよくするために考えたことがある」と回答した生徒の割合が岩国市、全国共に前回調査よりも高くなっており、一定の成果がみられる。しかし、結果の数値に目を向けると、今後も地域連携教育の活動を継続して行い、地域に対する関心等、生徒の意識向上を図っていくことが肝要である。

●《社会的事象への関心》

「新聞をほとんど読まない、または全く読まない」に関する質問の調査結果は、前回調査よりもやや好転しているが、割合は低い状況である。この結果に比例し、新聞をほとんど読まない、または全く読まない児童生徒の全国学力・学習状況調査の正答率も低くなっている。

●《家庭での学習習慣》

学校の授業時間以外の1日当たりの勉強時間や家で自ら計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合が、全国平均と比べて低い。

② 学校に対する調査

【望ましい状況】

○《小中一貫教育》

近隣の小（中）学校と、教科の教育課程の接続や教科に関する共通理解の目標設定など、教育課程に関する共通の取組や、授業研究などの合同研修会を行った割合は、全国に比べて高い。また、教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている割合も全国に比べて高く、令和2年度からスタートした岩国市小中一貫教育の取組が、各中学校区で定着してきている。

○《学習指導》

言語活動について、国語科だけでなく、各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる

割合は、全国に比べて高い。また、新学習指導要領の改訂及び実施に伴い「指導と評価の一体化」が重視される中、授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた割合についても、全国に比べて高い。

○《家庭や地域との連携》

地域協育ネットやコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、学校の美化、登下校の見守り等、保護者や地域の人との協働による活動を行った学校の割合は、全国に比べて高い。また、保護者や地域の人との協働の取組は、学校の教育水準の向上に効果があったと回答した学校の割合も全国より高い。

【課題とみられる状況】

●《学習指導》

児童生徒間で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成したり、一人一人の児童生徒が意思決定したりできるような指導を行っているとは回答した学校の認識と、児童生徒の認識が一致するような工夫をしていくことが課題。

（３）今後の対応

○ **年２回の検証改善サイクルの確立**

「全国学力・学習状況調査」及び「学力定着状況確認問題」において、学力状況と質問紙等の結果把握と分析に基づき、具体的な指導の工夫改善を図ることができるよう支援する。

○ **授業改善**

「岩国市：ＩＣＴを活用した『新しい学習様式』」に則った授業の実施をめざし、タブレット端末を活用するなどして、自分の考えを話したり書いたりして伝える場をさらに設け、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進める。

○ **地域との連携した取組の推進**

令和２年度からスタートした岩国市小中一貫教育の仕組みを生かし、めざす子供像や課題を共有し、９年間を見通した教育課程を編成するなど、各中学校区において取組を進める中で、学力向上とともに、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら、引き続き地域との連携も推進していく。

3 教科ごとの結果

(1) 小学校

① 国語

【相当数の児童ができている点】

- ・思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う。
- ・目的や意図に応じ、資料を使って話す。
- ・目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える。

【課題のある点】

- ・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。
- ・目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける。
- ・文の中における修飾と被修飾との関係を捉える。
- ・目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。

② 算数

【相当数の児童ができている点】

- ・棒グラフから、数量を読み取ることができる。
- ・棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる。
- ・条件に合う時刻を求めることができる。

【課題のある点】

- ・複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる。
- ・帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる。
- ・商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる。
- ・小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたとき比較量が示された小数に当たる理由を記述できる。

(2) 中学校

① 国語

【相当数の生徒ができている点】

- ・文脈に即して漢字を正しく読む。
- ・質問の意図を捉える。
- ・話合いの話題や方向性を捉える。

【課題のある点】

- ・文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ。
- ・書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く。

- ・相手や場に応じて敬語を適切に使う。
- ・文脈における語句の意味を理解する。

② 数学

【相当数の生徒ができている点】

- ・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。
- ・与えられたデータから中央値を求めることができる。
- ・ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる。

【課題のある点】

- ・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
- ・ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる。
- ・数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる。
- ・相対度数の必要性和意味を理解している。
- ・平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる。